

ヤマブドウのつるの太さ

石 沢 進

ヤマブドウは秋の終わりにになると紅葉し、落ちかかった葉の腋に垂れ下がったブドウの房を見つけると、房を取ってみたいくなる。子供のころは酸っぱい実を口に入れて歯がうきそうになるまで食べたおやつでもある。つる性の木本であることは、実を取る時にそのつるにぶら下がって登ったので印象深い。ぶら下がるにはある程度の太さがないと落下してしまうので、太さを確かめることはあった。しかし、ブドウのつるの太さに深く関心をもったことがなかった。2002年の5月に奥只見銀山平の「奥只見山荘」に宿泊する機会があり、その食堂の床の間に大きな「ブドウのつる」の一部が展示してあり、その大きさに驚いた。つるの幹周を計ってみると幹周 56cm (根元、43cm) である (写真参照)。奥只見のブナの伐採の際に佐藤好典氏が発見し、保存してあったのをもらい受けたものだという。



写真1 ヤマブドウの古木とカーラ・テーネさん (国立ライデン大学附属植物園 キューレーター)

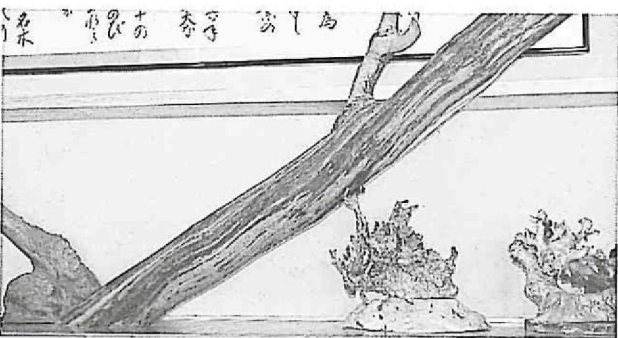


写真2 ヤマブドウの古木の一部

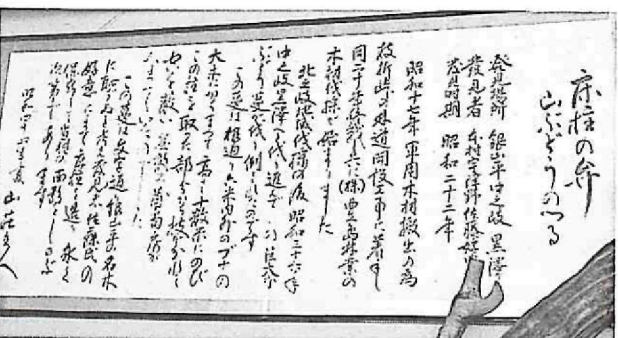


写真3 ヤマブドウの床柱の弁

生存しているヤマブドウのつるの幹周がどの程度の太さであるか広く調査して確かめていないが、少なくともこれまでに見たものでは、最大と思っている。この大きさをしのご太さのものを発見したら、是非とも情報の提供をお願いしたい。

このブドウのつるを見たことから、山野でつる性の植物の太さに関心をよせるようになったが、なかなか大きなものに出会うことが少ない。8月に湯沢町元橋の沢でサルナシのつるの幹周 31cm が唯一の発見である。

巨樹に関心をもつ人が多くなり、巨樹ブームの時代ともいえる。もともと小さい樹木でも、その太さの最大の“王様”さがしをしたいものである。本誌にそのような情報を掲載したいと思っている。ご協力をお願いしたい。



写真4 サルナシのつる



写真5 サルナシのつる根元